

ご挨拶

(一社) 東北地質調査業協会 理事長 **奥山 清春**



日頃より当協会の事業運営に対しまして、格別のご理解、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。本年も引き続きよろしくお願ひ申し上げます。

東北地方には大切な雪があります。スキーやレジャーを楽しんだり、雪景色を眺めながら一年の疲れをいやしたりする日本人の多くにその風景が溶け込んでおります。近年はこの当たり前の風景が一変する時代になっております。今年は青森などに災害級の雪が降り、1月や2月には日本海側を中心に警報が出されるなど通常の生活が脅かされる地域も発生しております。一方昨年のように雪不足で全く東北ならではのイベントやレジャーが出来無など年や地域毎の振れ幅が極端に大きくなり、これも温暖化の影響とここ数年は強く感じております。

このような状況下、昨年の元日には能登半島地震が発生し、大変な被害が発生し、一年経過してもまだまだ復興の途中と聞いております。被害地域の皆様の一日も早い復興をお祈りいたします。また昨年も全国各地で災害が発生し、7月には山形県と秋田県での人的被害も出る豪雨災害が発生しました。災害対応された企業におきましては、大変ご苦勞様でした。今後もこのような災害に備え、また災害協定に基づき積極的に対応させていただき、関係各所の皆様と一層綿密に連携を取りながら、安全・安心につながる

地域づくりに取り組んでまいります。

今年も国内、世界経済とも非常に厳しく難しく、いくつもの課題のある一年と予想されております。政治情勢も大変騒がしく、また様々な分野における物価高が続いております。引き続き我々業界も働き方改革の一層の推進が求められております。そのうえ賃上げ、若手技術者の雇用や技術の伝承、BIM/CIMなどの積極的な活用、そして何よりも引き続き防災・減災、災害対応などが非常に重要となっております。このような社会情勢に敏感になり、しっかり把握したうえで、協会員一丸となって、より一層前進するよう取り組んでまいりたいと思ひます。

今年の9月11～12日、東北地方では12年ぶりの全地連技術フォーラムが山形で開催されます。協会員の皆様には是非技術発表をはじめ積極的な参加とご協力をお願い申し上げます。全国各地より600名を超える方々の参加が見込まれております。是非交流を深めると同時に東北ならではのおもてなしをして盛り上げていきたいと思ひます。

最後になりますが是非今年も、会員皆様にとって良い年となるよう祈念いたしまして、本年もよろしくお願ひ申し上げます。